

日本株式市場の動向と今後の見通しについて

作成日 2026年3月10日

日本株式市場は2026年2月末に日経平均株価が終値ベースで史上最高値を更新した後、米国とイスラエルによるイラン攻撃により投資家のリスク回避姿勢が強まったため、3月9日にかけて大幅に下落しました。

足元の主要市場指標推移と騰落率（2/27-3/9）

	2026/2/27	2026/3/9	騰落率 2/27-3/9 (注1)
日経平均株価	58,850	52,729	-10.40%
TOPIX	3,939	3,576	-9.21%
NYダウ	48,978	47,741	-2.53%
S&P500	6,879	6,796	-1.20%
日本10年債利回り	2.12	2.19	0.07
米国10年債利回り	3.94	4.10	0.16
ドル円	156.13	158.09	1.26%

(注1) 騰落率のうち、日米10年債利回りは利回り変化幅

(注2) 単位（日経平均株価、ドル円：円 TOPIX、S&P500：ポイント 日本10年利回り、米国10年利回り：%）

日本株式市場は大幅に下落

- 日経平均株価は3月9日の終値が52,729円となり、2月末比は10.4%の下落となりました。
- 2月28日から米国とイスラエルによるイランへの攻撃が開始され、イランが事実上ホルムズ海峡を封鎖し、ペルシャ湾周辺国を巻き込む反撃をしたため、地政学リスクが急激に高まりました。また、3月8日にイランの次期最高指導者に反米保守強硬派のモジタバ・ハメネイ師が選出されたことを受け、戦争が長期化する懸念が一段と強まり、WTI原油先物相場は一時1バレル120米ドル近くまで上昇し、世界の主要株式市場の下落要因となりました。
- 3月9日の米国株式市場では、トランプ米大統領が対イラン戦争が短期に終結するとの見通しを示したことを受け原油価格は急落し、株価指数は上昇に転じるなど徐々に落ち着きを取り戻しています。

今後の見通し

- 当面の株式市場は、引き続き中東情勢に関する情報に左右されやすく、不安定な相場展開が続く見通しです。国内株式市場については、日本が輸入する原油の約9割をホルムズ海峡経由での調達に依存していることから、同海峡の航行停止が長期化した場合の国内経済への悪影響は大きく、株価の下押し圧力が再度強まる可能性が懸念されます。
- 一方で、このように地政学リスクに起因する市場センチメントは、短期的には過度に振れやすい傾向があります。リターン/リスクのバランスを考慮し、冷静に状況とファンダメンタルズを精査しつつ、運用収益の向上に繋げていく方針です。

※上記は過去の実績および弊社の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

出所：ブルームバーグのデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

＜ご留意事項＞

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。
- 当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の知的財産権・その他一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。

明治安田アセットマネジメント

明治安田アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第405号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会